日本　～経常収支黒字が震災前越えか?!～

経済調査部 主任エコノミスト　柵山 順子(さくやま じゅんこ)

16年の経常収支は6年ぶりの高水準

9月の経常収支は1.5兆円(季節調整値、以下同様)の黒字となり、1-9月の累計14.5兆円と震災前の2010年1-9月期の14.3兆円をわずかながら上回っている。このペースで行けば、暦年ベースでも2010年の19.4兆円を上回り、6年ぶりの高水準となる可能性も見えてきた。

16年1-9月累計と10年1-9月累計の内訳を比較すると、貿易黒字が減少した一方で、第1次所得収支(以下、所得収支と略す)黒字が増加している。震災以降、六重苦と言われる状況の中で企業の海外進出が増えたこともあり、モノの輸出入よりも対外資産からの収入が増加したことが見て取れる。

黒字拡大要因は原油安、内需停滞、直接投資

16年1-9月の経常収支黒字拡大をけん引した貿易収支と所得収支についてみてみよう。貿易収支について言えば、原油価格が下落したことが一番の黒字拡大要因である。10年当時と比べると、原油輸入価格は▲40%近く下落しており、輸入金額も3兆円減少した。また、世界的にも経済成長率は低く輸出金額は減少したが、国内需要の停滞を背景に輸入金額がそれ以上に減少したことも貿易黒字拡大につながった。

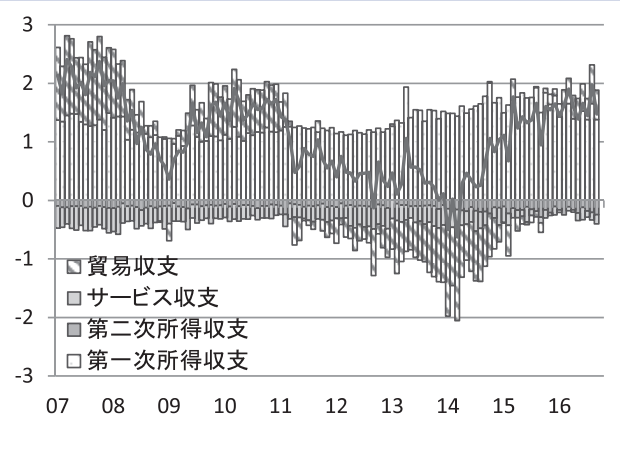
所得収支についてみれば、証券投資収益が16年初来の円高により押し下げられる一方で、アジアなど新興国で実行されてきた直接投資からの収益が堅調さを保ち、総じて見れば高水準の黒字を維持した。企業がこれまで積極的に海外投資を続けてきたことが実を結んだ形だ。

懸念される日本の収益力

このように、経常収支黒字の拡大は原油安という外的要因と、内需停滞、海外進出という状況が生み出したものであり、日本の成長力という観点からみれば、手放しに喜べるものではない。また、海外進出が拡大する中、増加が続いていた知的財産権やロイヤリティからの収益が、円高の影響もあり16年入り後は伸び悩んでいることも懸念される。さらに、新たな収益源として注力している海外観光客からの収入も円高の影響もあり、高水準ながらも伸びは一服している。

人口減少下、海外からの収益を得ることは非常に重要であり、経常黒字が高水準にあること自体は喜ばしい。しかし、その背景を確認すると、持続性という観点では全く油断ならない状況だ。この経常黒字に安心することなく、持続可能な対外収益力強化をはかることが必要だ。

資料1　経常収支の推移(季節調整値、兆円)



(出所)財務省「国際収支状況」

資料2　経常収支黒字の比較(季節調整値、兆円)

	2010年 1-9月	2016年 1-9月
貿易収支	7.0	3.6
うち輸出	47.8	50.4
輸入	40.8	46.8
サービス収支	▲ 2.0	▲ 0.8
第1次所得収支	10.1	13.4
第2次所得収支	▲ 0.9	▲ 1.7
経常収支	14.3	14.5

(出所)財務省「国際収支状況」　(注)マイナスは赤字を示す